



## 2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年5月15日

上場会社名 ソフトマックス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3671 URL <http://www.s-max.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松島 努  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当 (氏名) 上田 大輔 (TEL) (099)226-1222  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年12月期第1四半期の業績 (2023年1月1日~2023年3月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	1,101	15.0	121	23.5	133	21.9	89	25.7
2022年12月期第1四半期	957	△30.5	98	△66.1	109	△63.7	71	△65.8

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	14.94	-
2022年12月期第1四半期	11.92	-

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第1四半期	6,193	2,846	46.0
2022年12月期	6,549	2,936	44.8

(参考) 自己資本 2023年12月期第1四半期 2,846百万円 2022年12月期 2,936百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	-	0.00	-	30.00	30.00
2023年12月期	-	-	-	-	-
2023年12月期(予想)	-	0.00	-	20.00	20.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2022年12月期期末配当金の内訳 普通配当20円00銭 上場10周年記念配当10円00銭

## 3. 2023年12月期の業績予想 (2023年1月1日~2023年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,970	3.3	121	△23.9	142	△22.0	94	△20.9	15.70
通期	5,000	△1.0	550	0.4	592	0.0	391	△6.8	65.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年12月期 1 Q	5,985,900株	2022年12月期	5,985,900株
---------------	------------	-----------	------------

② 期末自己株式数

2023年12月期 1 Q	357株	2022年12月期	357株
---------------	------	-----------	------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年12月期 1 Q	5,985,543株	2022年12月期 1 Q	5,967,943株
---------------	------------	---------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、実際の業績等は、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。また、業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の3ページに記載した「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
(セグメント情報等)	6
(重要な後発事象)	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2023年5月に5類に移行されることが決定し、社会・経済活動の正常化に向けて大きく前進しました。一方で、米欧の金融不安や資源高、インフレの影響で世界経済の減速の懸念が高まっています。

当社が事業展開している医療機関におきましても、感染症の影響からの正常化の動きは見えるものの、医業費用の増加などにより経営環境は依然として流動的です。

そのような環境で、2023年3月に内閣総理大臣を本部長とする「医療DX推進本部」が、医療DX推進に関する工程表の骨子案を取りまとめました。骨子案では基本的な考え方として、医療DXにより国民の健康増進や、質の高い医療の提供と医療業務の効率化等の実現を目指すことが改めて示されました。また、2023年1月に電子処方箋の運用が開始され、医療分野におけるITは社会的なインフラとして整備が促進されています。

加えて、電子カルテシステム等のソリューションやクラウド技術、AIなどのテクノロジーは、社会的課題である社会保障費の抑制や医療サービスの地域格差解消、医師を始めとした医療従事者の働き方改革の支援等においても一層重要性が増しています。

このような状況の下、当社は既存顧客のリプレース需要と新規顧客のオンプレミス、パブリッククラウド(※)双方の需要取り込みに注力し、医療DX関連のシステムの開発、販売、導入を継続してまいりました。また、開発・技術部門では、顧客のニーズに沿ったシステム機能の充実と信頼性の向上という方針を継続し、システムの機能強化とバージョンアップを促進するとともに、先進的なテクノロジーの研究、顧客医療機関に対するサポート体制の強化、顧客満足度の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高1,101,645千円(前年同四半期比15.0%増)、営業利益121,317千円(前年同四半期比23.5%増)、経常利益133,067千円(前年同四半期比21.9%増)、四半期純利益89,452千円(前年同四半期比25.7%増)となり、前年からの受注残の案件の売上に加え、顧客満足度向上の継続的な取り組みによる既存顧客からの売上増加により、前年同四半期比で増収増益となりました。また、受注高は829,107千円(前年同四半期比21.4%増)となり、引き続き堅調に推移しています。

(※) オンプレミス : 医療機関内のサーバー機器を利用してアプリケーションを使用すること  
パブリッククラウド : 外部のデータセンターを利用してアプリケーションを使用すること

なお、セグメント別の業績につきましては、システム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しておりますが、受注実績及び販売実績を種類別に示すと、次のとおりであります。

## ①受注実績

種類別	当第1四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
システムソフトウェア	531,883	106.6	1,118,663	92.2
ハードウェア	297,223	161.6	521,821	102.3
合計	829,107	121.4	1,640,484	95.2

## ②販売実績

種類別	当第1四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	前年同四半期比(%)
	販売高(千円)	
システムソフトウェア	482,357	107.0
ハードウェア	252,651	148.7
保守サービス等	366,636	108.8
合計	1,101,645	115.0

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ、流動資産が374,465千円減少、固定資産が18,180千円増加した結果、356,284千円減少し、6,193,220千円となりました。流動資産の減少は、主に現金及び預金が243,378千円、仕掛品が46,160千円それぞれ増加したものの、受取手形及び売掛金が658,339千円減少したことなどによるものです。一方、固定資産の増加は、主に投資その他の資産が17,031千円増加したことなどによるものです。

### (負債)

当第1四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ、流動負債が269,678千円減少、固定負債が3,507千円増加した結果、266,170千円減少し、3,347,209千円となりました。流動負債の減少は、主に支払手形及び買掛金が331,852千円減少したことなどによるものです。一方、固定負債の増加は、長期借入金が4,380千円減少したものの、退職給付引当金が7,479千円増加したことなどによるものです。

### (純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ、90,113千円減少し、2,846,011千円となりました。その要因は、四半期純利益89,452千円の計上、配当による利益剰余金の減少179,566千円によるものです。なお、自己資本比率は46.0%となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

わが国の社会・経済活動は、新型コロナウイルス感染症の影響から正常化が進みつつあります。医療業界におきましては、2022年10月に医療分野のデジタル化を国策として推進する「医療DX推進本部」が設置され、全国医療情報プラットフォームの創設や電子カルテの標準化、診療報酬改定DX等の取り組みが開始されました。また2023年に入り、電子処方箋の運用、オンライン資格確認の本格運用が始まり、医療情報利活用に向けた基盤整備の重要性が益々高まっています。当社は、医療IT企業として、国のデジタル化推進方針に基づく医療政策、各都道府県の掲げる地域医療構想に対応した医療のICT化、医療DXの推進を図ることにより、更なる医療への貢献を目指してまいります。

このような事業環境の下、当第1四半期累計期間においては、添付資料の2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」に記載のとおり、前年同四半期比で増収増益となりましたが、2023年12月期第2四半期累計期間及び通期の業績につきましては、現時点において2023年2月13日に公表しました業績予想から据え置いております。

※業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおりますので、実際の業績等は今後の業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,851,233	3,094,612
受取手形及び売掛金	1,580,847	922,508
商品	82	65
仕掛品	220,868	267,029
貯蔵品	556	509
その他	71,585	65,985
流動資産合計	4,725,175	4,350,709
固定資産		
有形固定資産		
土地	770,309	770,309
その他(純額)	294,093	293,791
有形固定資産合計	1,064,402	1,064,100
無形固定資産	35,239	36,690
投資その他の資産		
投資不動産(純額)	569,687	567,635
その他	155,000	174,085
投資その他の資産合計	724,688	741,720
固定資産合計	1,824,330	1,842,510
資産合計	6,549,505	6,193,220
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,392,434	1,060,582
短期借入金	1,150,000	1,150,000
1年内返済予定の長期借入金	17,520	17,520
未払法人税等	86,212	68,700
賞与引当金	-	58,200
その他	318,888	340,374
流動負債合計	2,965,055	2,695,376
固定負債		
長期借入金	179,580	175,200
退職給付引当金	289,252	296,732
役員退職慰労引当金	145,270	146,406
その他	34,222	33,493
固定負債合計	648,325	651,832
負債合計	3,613,380	3,347,209
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	437,080	437,080
資本剰余金	298,230	298,230
利益剰余金	2,201,107	2,110,993
自己株式	△293	△293
株主資本合計	2,936,124	2,846,011
純資産合計	2,936,124	2,846,011
負債純資産合計	6,549,505	6,193,220

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
売上高	957,831	1,101,645
売上原価	641,540	747,748
売上総利益	316,291	353,897
販売費及び一般管理費	218,071	232,579
営業利益	98,219	121,317
営業外収益		
受取利息	9	9
受取賃貸料	18,988	20,494
その他	543	202
営業外収益合計	19,541	20,705
営業外費用		
支払利息	1,189	1,139
賃貸費用	7,440	7,816
その他	9	0
営業外費用合計	8,640	8,956
経常利益	109,120	133,067
税引前四半期純利益	109,120	133,067
法人税、住民税及び事業税	44,810	63,012
法人税等調整額	△6,838	△19,398
法人税等合計	37,972	43,614
四半期純利益	71,148	89,452

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)及び当第1四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)

当社の事業は、システム事業の単一セグメントですので、記載は省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。